



「あ」じゃなく「お」

タイトルを読んで何のことだろうと思われたのではないのでしょうか。私もそうでした。これは、「わたしの遺産」というコンテストで大賞(第6回)をとった作品のタイトルです。

受賞した小松愛子さんによれば、新米ママだった頃、幼稚園年長だった息子から言われた言葉だそうです。なぜ、この言葉が「わたしの遺産」となったのか、以下に本文を紹介します。

息子が幼稚園年長だったある時、突然、「ママ、『あ』じゃなくて『お』、『あ』って言わないで、『お』って言って」と、言いだしました。「何を言っているの」と訊いても、「だから『あ』じゃなくて、『お』なの。」と繰り返すだけでした。これは息子からのメッセージだったのです。

当時フルタイムの仕事をしていて、気持ちも時間も余裕のない新米ママだった私は、マイペースな息子に対し、「あっ、またー」「あっ、もう。」という言葉ばかり口にしていたのです。「あ」の後には否定的な言葉が続きますが、「お」の後には、「おー、すばらしい」「おー、頑張ったね。」など、相手を認め賞賛する言葉が来ます。息子のメッセージに反省させられ、『あ』じゃなく『お』は私のおまじないになりました。

自分の家庭を持つようになった息子が幼かった頃に授けてくれた、大切な「わたしの遺産」です。

読んでいて確かにそうだなと感じました。私たち教師も、子どもがノートに書いた考えや作品を見る時、「おっ、いいねえ。」「おっ、深い考えだなあ。」「おー、かっこいいなあ。」など「お」の後には、認め賞賛する言葉が来ます。それに対して、「あ」の後には、「字が違うよ」とか「間違っているよ」などの指摘が多いです。保護者の皆さんも思い当たることがあるのではないのでしょうか。

受賞した際のインタビューによれば、幼稚園年長の息子さんは、お母さんに歯磨きしてもらう時、いつもドキドキしていたそうです。「あっ、汚いところがある」「あっ、虫歯がある」などよくないことを指摘されるのではと心配だったのです。「おっ、きれいに磨けているね。」とか「おっ、歯磨きが上手になったね。」と褒めて欲しかったのでしょう。

その思いが『あ』って言わないで、『お』って言って」という言葉になってあらわれたのですね。

子どもたちは、きちんと説明できなくても、私たちの言葉を敏感に感じ取っています。ちょっとした言葉かけの違いで、前に進める場合もあれば、やる気をなくす場合もあります。私たち大人の言葉かけを振り返らなくてははいけませんね。